

# エデュコ **Educo**

No.52  
2020年



巻頭インタビュー p.2

一般社団法人  
エシカル協会代表理事

末吉 里花さん

## 知っておきたい教育 NOW p.4

- ① 真に役立つ「論理的思考力」を育てるために
- ② 「深い学び」は「確かな学び」から生まれる

## きょういく見聞録 p.8

- ① 佐渡島の魅力あふれる地域資源に気づく観光教育の試み
- ② 観光教育で「佐渡の未来」を明るくする学びを!

## 地球となかよしピックアップ p.10

人とつながる 社会とつながる  
未来とつながるESD

## Information 北から南から p.12

### 地球となかよしゼミナール p.14

本物を体験するということ  
-アートと教育②-

### コラム p.15

オリパラ教育の成果を「レガシーにする！」  
ためのタイミング

### ほっとな出会い p.16

山形県鶴岡市立  
加茂水族館名誉館長 **村上 龍男さん**

# エシカルな社会を目ざして ともに生きる、ともに学ぶ

一般社団法人エシカル協会代表理事

末吉 里花さん

## ミステリーハンターとして活躍、 環境被害の現場を知る

もともと私はエコや環境問題にそれほど関心があったわけではなく、『世界ふしぎ発見!』（TBS系）のミステリーハンターとして世界の現状を目の当たりにしたのが、現在の活動のきっかけでした。北極に近い、シベリアにあるベテンキオス村という小さな村を訪ねたときのことです。土と氷が混ざってできている永久凍土の上に村が建っていて、ヤクト族という民族が自給自足の生活をしているんですけれども、私が行った2004年にはすでに温暖化の脅威が迫っていました。永久凍土が溶け始めて、近くの村では家が傾いて暮らせなくなっている。近い将来、自分たちも代々愛してきたこの土地を離れなければいけない日が来るかもしれない。村人たちはとても心配していました。環境問題の被害が実際に起きていることを耳にして、大きなショックを受けました。私にとつて初めて気候危機を実感した瞬間だったんです。連絡手段がない秘境なので、その村が今どうなっているかわからないのですが、おそらく温暖化の影響が現れているはずですよ。

## キリマンジャロの山頂で天命を知る

人生最大のターニングポイントになったのが、2004年にアフリカのタンザニアにある、キリマンジャロ山に登頂したときでした。山頂の氷河の状況をレポートする取材だったのですが、当時すでに氷河の減少が問題視されており、ふもとの小学校に通う子どもたちが、キリ

マンジャロの氷河が再び大きくなりますようにと祈りを込めながら植林活動をしていました。氷河の雪解け水の一部が彼らの生活用水になっているので、それがなくなってしまうのは死活問題なのです。「ぼくたちはあんな高い山に登れないから、代わりにお姉ちゃんが登って、見て来てね」と子どもたちの言葉に背中を押されました。登っている最中、高山病で気を失って倒れるアクシデントもありましたが、何とか登頂を果たしました。

山頂の氷河は大きく減退して、今までの一割か二割程度しか残っていませんでした。その光景を目の前にして衝撃を受けて、いてもたってもいられなくなり、心に決めました。今後は世界中でこうした問題が起きていることを人々に伝えたい。伝えるだけでなく、改善に導くような活動をライフワークとして、一生をかけて取り組んでいきたい。

その後、山の反対側に降りてしまったので、ふもとの小学校の子どもたちにも会うことはできなかつたのですが、今でもよく想像します。あの子たちは元気かな、今もあそこで暮らしているのかな、と……。

今まで80カ国ほどの国々を訪ねてきましたが、その中で共通して見出してきた



## PROFILE

ニューヨークで生まれ、鎌倉で育つ。一般社団法人エシカル協会代表理事。日本ユネスコ国内委員会広報大使。慶應義塾大学総合政策学部卒業。TBS系テレビ番組『世界ふしぎ発見!』のミステリーハンターとして、世界各地を旅した経験をもつ。日本全国の自治体や企業、教育機関で、エシカル消費の普及を目ざし講演やワークショップを重ねている。著書に『祈る子どもたち』（太田出版）、『はじめてのエシカル』、絵本『じゅんぴはいいかい?〜名もなきこざるとエシカルな冒険〜』（山川出版社）。

のは、この世界は本当に一握りの利益や権力のために、美しい自然や弱い立場の人たちが犠牲になっているという構造でした。

## エシカル普及の難しさとやりがい

「エシカル」は直訳すると「倫理的な」という意味ですが、「人、地球環境、社会、地域に思いやりのあるお金の使い方や生き方をする」といつもご説明しています。

地球環境の危機を上から目線で伝えるのでは普及していかないので、どうやって世界の問題を自分ごととして捉えてもらえるか、常に相手の立場に立って伝えることを心がけています。英語で耳なじみがないせいか、高齢者の方には伝えるのが難しいと思うときもありません。しかしこの考えは日本人が古くから大事にしてきた、おたがいさまか思いやり、足るを知る、もつたないない、お天道様が見ている、そういう考えや精神と共通点が多く多くて。むしろ我々日本人が世界をリードしてエシカルの考えを



実践し、世界の課題を解決していく力をもっている存在なのではないでしょうか。日本人が大切にしてきたこの精神をもう一度掘り起こして、日本人らしさを見つめ直すきっかけにもなると思っているので、多くの人がエシカルの理念に共感し、暮らしに取り入れてくださることに大きな喜びを感じます。今までは地球環境や社会問題に全く関心のなかった人が、明らかに変わっていく瞬間を目の当たりにできる。それが私たちにとって最大のやりがいです。

**世界を変えようと立ち上がる若者たち**

いま世界で起きているさまざまな問題の一つに児童労働があります。小学校でエシカルについて授業をする機会があるのですが、みんなが使うサッカーボールや普段食べているチョコレートを作るため、途上国ではみんなと同じくらいの年の子が学校にも行けず、健康を害しながら毎日働いていると伝えるとき、すごくびつくりして、さっと表情が変わるんですね。

授業の後、5年生の女の子に「こんな



大事なこと、どうして今まで大人は誰も教えてくれなかったの？」と言われたときは胸を突かれました。貧困問題も環境破壊も人権侵害も、こうした問題があるのを知っているながら、なぜ大人たちは解決しようとしなののか、疑問を突き付けられるのです。

子どもたちは本当に純粹に、誰かが泣いているもの、地球が苦しんでいるものを使いたくない、食べたくない、素直に思ってくれるので、いまの自分たちでできることを考えて行動に移してくれています。

例えば、「卒業証書は一生大事にするものなので、人や地球を傷つけていない紙がいい」と先生に直談判してフェアトレードの紙に切り替えたり、エシカルをテーマにした文化祭を開催して、売上げを私たちの団体に寄付してください。生協に置かれていた物をエシカルな物に替えてくれた学校もありますし、静岡の学生さんたちは、名産のお茶を使ってフェアトレードのコーヒーとコラボできないか地元の人と考えたりして、地域の活性化にもつながっています。

大きなことでなくても、親御さんと買い物に行くとき、「学校でこんなことを教わったんだよ」と話題にあげてくれて、買い物を通じて親を変えてくれている子どもたちも大勢います。「うちはどれくらいゴミを出しているのかな」と書き出して、家族で暮らしを見つめ直してみたり。おもしろい試みをいろいろとやっていますね。

今は親より子どもの方がSDGsやエシ

カルを学ぶ機会が増えているので、若者たちが先頭に立って世の中の流れを変えていると感じます。

私たちの団体も一番力を入れているのは教育です。日本よりエシカル消費が20年ほど進んでいるような北欧諸国やイギリスで取材させてもらったのですが、やはり小さい頃からの学びの積み重ねではないかと実感しました。時間はかかるけど、エシカル普及には教育が最も確実なので、これからより一層力を入れていきたいですね。

**一人の百歩より百人の一步**

今の地球規模の環境問題を引き起こした一番の原因は企業活動と言われているので、企業が変わっていくことで、問題は大きく改善すると思っています。自分一人では大企業を変えられないとおっしゃる方もいますが、消費者の権利を生かして実際に声を伝えていくことで、企業が変わっていく事例はものすごくたくさんあるんですよ。

私たちの講座を受けてくださった方が、自分のよく行くスーパーに平飼いの卵がなかったの置いてほしいとお店側に伝えましたね。何人が友達も誘って同じような声を届けたら、翌月から平飼いの卵が置かれるようになったそうです。

顧客が支持してくれないと企業もやっけないので、消費者の声を無視することはできません。私たちが厳しい目をもって、企業に何を求めるのか、どんなものを作ってほしいのか、逆に何がいらぬのか、声に出して届ける。これが企業にとって、変わらなくてはいけないという最も大

きなきっかけを生むと考えています。声を上げない限り企業は私たちを無視して、さらに地球を傷つける経営が行われていくかもしれない。私たち一人一人に、社会を変えるための大きな力が備わっていることを知ってほしいですね。


**ともに生きる、ともに学ぶ**

エシカルの基本精神は他者を思いやるということだと思います。世界で起きているいろいろな問題の原因になっているのが、相手の立場に立ってない、相手の気持ちをわかってほしいことにあると感じます。現代社会が抱える地球規模の問題を自分たちに引き寄せて、答えのない問いを一緒に考え続けていく、そのヒントとなるのがエシカルの精神だと思います。

エシカルとひと口に言っても間口が広く、地産地消からフェアトレード、オーガニック、伝統工芸、障がい者の方たちが作ったものに至るまで、多岐にわたっていて、多くの人に参加してもらえらる拡散型の活動であるところに魅力があります。

威圧感や危機感が社会を変えていくには限界があります。マイナスイメージばかり伝えても人は心を開いてくれないし、巻き込めないのです。たくさんの人に参画したいと思ってもらうため、楽しくワクワクするような活動であるようにいつも心掛けています。「なんだかおもしろそうだから私もやってみよう」と思わず感じてもらえるように、いろんな人にエシカルの魅力を広めていきたいですね。

のをす  
ら画ま  
か動け  
先一だけ  
生七た予  
吉ッ覧月  
末メこ(5  
月開定)





# 真に役立つ 「論理的思考力」を 育てるために



明治大学准教授・文芸評論家  
伊藤 氏貴

## 「論理的思考力」の 「実用」性

最も論理的なことばは数式だが、ただ、誰しもが日常的に接し、論理的かつ実用的な文と言え、法律など社会のルールに関するものである。生徒にとっては校則が最もわかりやすいだろう。

事件が起きたり、なにか新たに事を成そうとしたりしたときには、こうしたルールのどの部分が当てはまるかを検証するが、ただし、ここはまだ「論理的思考力」の出番ではない。このケースにはこのルールが当てはまる、というだけではまだ情報処理の問題にすぎない。真の「論理的思考力」が問われるのは、これまでのルールでは処理できないような問題が生じた場合である。

たとえば私の通った高校は、あまり校則などうるさくなかったが、昔から二つだけ厳しく言われていた。一つは、教室での麻雀禁止だった。ならばトランプはよいのか、新たに出てきた電子ゲームはどうなのか、という疑問が生じる。

### ポイント

- ①「論理的思考力」とは、一見無関係な物事同士の隠れた関係を見出す力のことである。
- ②「論理的思考力」の「実用的」な働かせ方とは、ことばの裏にある「意図」を探ることである。
- ③「論理的思考力」を育むには、スピーディーな情報処理でなく、他人のことばにじっくり向き合う精読が必要である。

### 「論理的思考力」とは

高校に「論理国語」という科目が新設されることもあり、「論理的思考力」というものに注目が集まっているが、ではまず「論理」とはなんなのか。また、新科目に「実用文」が導入されるとすれば、「実用的」とはどういうことかが問われなければならない。

「論理的思考力」とは、一見無関係なものに隠れた関係性を見出す力、離れた点同士の間を線をつなぐ力のことである。さらにはその線をまだ見ぬ先へ延長することのできる力でもある。

「論理の飛躍」がまずいのは、点

と点とが離れすぎて、誰もその間に線が引けないからだ。しかし一方、あまりに点同士が近すぎる場合、そこに「論理」は無用である。たとえ

ば電化製品の取扱説明書などを読むのに「論理」は必要ない。書かれているとおりにボタンを押しさえすればその製品を使いこなせるだろうから、たしかにそれは「実用的」ではある。しかし、「論理的思考力」とは、たんに情報を検索・処理する力のことではない。「読解」ということに限ってなら、その文章の裏にある「意図」を推理する力のことである。

このとき、「そもそもなぜ麻雀が禁止されたのか」という原因を探ろうとするのが「論理的思考」である。賭博に繋がりがかねないからなのか、勝負が長すぎて休み時間で終わらないからなのか……。

ここでもう一つの禁則を考え合わせることになる。それは、下駄履き通学の禁止だった。一見まったく無縁のこの二つの禁止事項の間にどんな「線」が結べるか。私の高校は上履きがなく、土足のまま教室に入った。となると、「麻雀」と「下駄」とを繋げるものは、そう、ガラガラというあの騒音である。これが休み時間であっても勉強したい仲間の集中を妨げる。二つの禁則の「意図」は、他人の勉強の自由を奪わない、ということにあった。

とすれば、音の出ないゲームならかまわない、ということになるだろう。騒がなければトランプでも。電子ゲームも音を消しさえすれば。

たとえばこのように考えていくのが、「実用的な論理的思考力」である。法の解釈というものの基

本はここにある。時代遅れに見える法であっても、そこには制定者のどのような「意図」があったかを探り、それを将来に向かって応用していく。点と点を結び線を延長する力は、後ろに向けば原因の探求となり、前に向けば未来を見通す力となる。

ここで重要なのは、われわれが使うことには必ず隠れた「意図」があるということだ。数式や論理学で使う論理式は、その意味であり「実用的」とは言えない。

たとえば、「逆」「裏」「対偶」のような概念を学ぶことは重要だ。逆は必ずしも真ならず。そのとおりだ。しかし、もし「勉強しな」とおやつあげないわよ」という母親が、勉強を終えた息子に、「勉強したからおやつあげるとは言っていないわよ」と言うならば、必ずや深刻な家庭問題を引き起こすだろう。たしかに母親の発言から純粹に導き出せるのは、対偶の「おやつがもらえないなら勉強した」だけである。しかしこの場合、裏の「勉強すればおやつをあげる」も真だという「意図」を認め合っ

てはじめて会話が成立しているはずだ。「実用的」な「論理」とはあくまでことばそのものの表面的な問題でなく、そのことばを使った者の「意図」を辿ることだ。

### 論理的思考力を育てるため

その意味で、論理は実用文や評論ばかりでなく、随筆や小説の中にもある。むしろ後者になるにしたがって、その論理は複雑で、それゆえ実用的になるのだと言ってもいい。

知人の判事は、司法修習所の教官をしているときに、未来の法曹家たちに向かってしきりに「小説を読め」と言ったそう。それは、ともすると司法試験合格までの道のりをスムーズにきてしまった修習生たちには、犯罪者の「論理」がわからないからだ。客観的に見れば本人の得にならないに決まっているのに犯される犯罪がある。それでも、本人にすらわからないようななんらかの感情的・心理的「論理」がそこにはあるはずだ。それを読み解くことなしにたんに機械的に判決を下すだけなら、裁

判はいらない。一見不合理な犯罪にも隠れた「三分の理」があることを見出すのが、生きた、すなわち実用的な論理的思考力である。

現行の高校国語教科書一般を、現在の高校生には共感できない小説ばかりだ、と批判している数学者がいたが、すぐに共感できるような作品ならそもそも教科書に載せる必要はない。共感できないからこそ論理的思考力を働かせる余地がある。登場人物がなぜそんなことを言ったりしたりするのかわからない。そこに隠れた「意図」を探ることから現実生活に役立つ論理の力は育まれる。

具体的に細々とした方策を挙げる紙幅はないが、一つだけ言えるのは、そのためには「精読」の訓練が必須だということだ。かつて中勘助の『銀の匙』一冊を中学三年間かけて読み込む授業をした故・橋本武先生の教室からは、後に最高裁判事や日弁連の事務総長が輩出した。生きた論理的思考は、人のことばにじっくり向き合うところから生まれる、というなよりのエビデンスだろう。🍀

# 「深い学び」は「確かな学び」から生まれる



東京都目黒区立東山中学校主幹教諭  
人見 誠

**ポイント**

- ①平成10年版学習指導要領から「読むこと」軽視の流れは続いている。
- ②新学習指導要領が目指す「深い学び」は、今のままでは実現できない。
- ③これからは、教科書の重要性が更に増していく。

## 国語教育は危機に瀕している

中学校教員として30年以上授業をしているが、今日の国語教育の現状には強い危機感をもっている。  
1998（平成10）年に告示され

た学習指導要領は、「ゆとり」のなかで「生きる力」を育むことを目指し、完全週5日制の導入に伴った教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設などの改訂が行われた。

国語科においては、授業時数の削減とともに、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」という目標のもと領域の再編成が行われ、「話すこと・聞くこと」が3領域の筆頭に掲げられた。これは非常に大きな改訂であった。

このように、「教養国語」から「実用

国語」へとというイメージをもたせるものであるこの改訂の中で、「読むこと」領域は3番目の扱いとなり、「指導に当たって配慮すべき事項」には、「従前の読むことの指導においては、文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであったことが指摘されている。今回はこのことを踏まえ、目的や意図に応じて多様な文種を取り上げるとともに、多彩な学習活動が展開されるようにした。」という記述が見られた。確かに、それまでの国語の授業と言えば教科書の教材（特に小説）を読むことが中心で、1つの教材にいたずらに時間をかける傾向にあったのは事実である。その点においては、この指摘は的を射たものだった

こうした流れは、現行の学習指導要領にも受け継がれている。現行の学習指導要領における国語科は、引き続き「生きる力」を育むことを目指し、「基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、言語活動を充実すること」としている。「言語活動の充実」が大きく取り上げられ、「言語活動例」が格上げされたことにより、以前にも増して言語活動を中心に据えた授業が多く見られるようになった。

この流れは文学的文章の授業においても例外ではない。21世紀型学力が提唱され21世紀にふさわしい学校や学びが求められる現在において、文学的文章においても言語活動を軸にした授業を行うことに意味がない

たと言えるだろう。しかしその反面この記述がそれ以前の文学教育に対する批判であるかのように受け取られ、活動中心の授業がよいのだという風潮を生んだのも事実である。

## 「活動」だけでは「学び」は生まれない



わけではないし、私自身も言語活動を軸にした授業自体を否定しているわけではない。しかし、今日行われている多くの活動中心の授業には、2つの点から疑問をもっている。

ア 活動に重きが置かれすぎていて、生徒が何をどのように学んだのかが見えてこない。場面の移り変わりや登場人物の性格、気持ちの変化といったものを、どのような手法で読み取らせるのだろうか。教えるべきことは、きちんと教えるという場面が必要なのではないか。

イ 全ての文学的文章を精読する必要はない。しかし、作品そのものの本質に迫り、味わうのではなくて、学習活動の材料として取り上げるような文学的文章の授業ばかりでよいのだろうか。

### 教科書の重要性はますます高まってくる

一時期、「どんな教材でも3時間でできる小説の授業」という冗談がはやったことがある。「1時間目では全文を読む。2時間目では主人公に手紙を書く。3時間目でそれを読み合う。」

これは極端な例だが、今やこれ

が冗談とは言えない事態が生まれ、きてきている。このような状況になった要因として、文学的文章の指導の体系がきちんと構築されていないということがある。

また、生徒からはよく「国語は何を勉強すればいいかわからない。」という声を聞くが、それも指導体系が構築されていないことが多い。文学的文章にも論理がある。まずは「時・場所・人物」といった物語の設定や「心情」「理由(わけ)」「描写」といった文学的文章ならではのポイントをおさえ、作品の構造を正しく捉えさせることで作品をきちんと読ませることができ、論理的思考力も身につけさせることができる。そして、そういった土壌があるからこそ「自分の考え」も形成され、他者との交流も有効になる。さらに、自分の考えを自分の言葉で伝え合うからこそ「言語運用能力」も育成され、考えが広がったり深まったりするのである。

昨年12月に発表されたPISA 2018の結果では、日本の読解力は15位という過去最低の結果になっている。こういった現状を見るにつけ、「読むこと」の授業作りを早急に改善する必要性を強く感じ

る。「深い学び」に導くためには、その土台となる「確かな学び」が

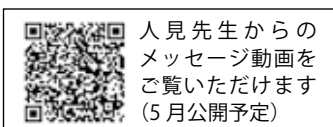
#### 読解力

	2000年調査	2003年調査	2006年調査	2009年調査	2012年調査	2015年調査	2018年調査
日本の得点	522点	498点	498点	520点	538点	516点	504点
OECD平均	500点	494点	492点	493点	496点	493点	487点
OECD加盟国中の順位	8位/28か国	12位/30か国	12位/30か国	5位/34か国	1位/34か国	6位/35か国	11位/37か国
OECD加盟国中の順位範囲	2~15位	10~18位	9~16位	3~6位	1~2位	3~8位	7~15位
全参加国中の順位	8位/31か国	14位/40か国	15位/57か国	8位/65か国	4位/65か国	8位/70か国	15位/77か国
全参加国中の順位範囲	3~10位	12~22位	11~21位	5~9位	2~5位	5~10位	11~20位

OECD生徒の学習到達度調査(PISA) 2018年調査国際結果の要約 P23表9

必要なのである。多くの教師は教師用の指導書や教科書の「学習の手引き」(\*)と呼ばれるページを参考にして授業を行っている。まして若手の教師にとっては、「学習の手引き」は授業作りの指針となるべきものである。今日、教科書の役割はますます増大しているのである。そのために今後の教科書では、従来どおりの内容の読み取りや言語活動への展開ばかりでなく、文学の学習の体系を作り、具体的に示すなど、「読み方」を明確にして「確かな学び」が実現できるよう求めたい。「読み方」を学ぶことが作品を深く読むことにもつながり、文学作品の価値をより味わうことにもなるのである。これから若手の教員がさらに増えていくことを考えても、教科書が生徒だけでなく、教師も「確かな学び」に導いてくれる存在になることを願っている。

\*「学習の手引き」……「読むこと」の教材において、教材文の前や後ろにあって、学習のポイントや学習活動の方法などを示すページのこと。



## 観光教育で「佐渡の未来」を 明るくする学びを！

佐渡市立新穂小学校 教諭 猪股 快門<sup>よしと</sup>

### 観光教育がもつ魅力と 底知れぬパワー

「観光」を題材に授業を組み立てていく。子どもたちも授業者もなんだか不思議なワクワク感が生まれる。先日、本校で行われた寺本氏の観光教育の授業を受ける子どもたちも、まさにそうであった。やはり「旅」や「観光」には、人をワクワクさせ、自然と学びの「世界」へと導いてくれるパワーがあるに違いない。

### 観光教育と地域貢献

これまでの私の社会科授業は、「地域を学ばせる」ことに主眼が置かれていた。

しかし、観光教育は、地域を学びの対象として終わらせるのではなく、学びと経験を活かし「地域貢献」する視点を与えている点が素晴らしい。住む地域の活性化や訪れる観光客が元気になる方法を考えることは、地域創生に課題を抱える地方都市にとって大変重要である。さらに、実際に外国人とのコミュニケーションを図りながら学習に取り組む実践もあった。まさに、観光教育は、地方を教育によって救う救世主的な手法と言える。

寺本氏の授業後、児童は「観光について自分はあまり深く考えたことがなく、おもしろかった。自分も地元の観光スポットを盛り上げられたらいい」と語っていた。社会科と総合的な学習の時間をリンクさせることで子どもたちは自分たちの住む町、都道府県の実情や未来を自分たち目線で意欲的に考えていた。



▲佐渡の魅力を考える観光教育の授業の一コマ

### おそらく、日本初のクラブ！

新穂小学校では、観光に注目し観光客を大切にす  
る取り組みを行っていたことに気づいた。それは、  
「ジオパーククラブ」の存在である（日本初と自負し  
ている 2017 年に設立された教育課程内のクラブ）。  
近年 3 年連続で佐渡や新穂地区の魅力をジオパーク  
全国大会で発表している。昨年度は北海道、今年度  
は大分で佐渡ジオパークの魅力を子どもたち自身が  
日本や世界の人に広めてきた。自分が住む地域の魅  
力に気づいた子どもたちが、その魅力を多くの人に  
発信し、全国の人から、その反応を聞けることは、  
この上ないよい経験である。観光の島・佐渡は、島  
全体が宝島だと再認識できた。



▲北海道（様似）で行われたジオパーク全国大会で佐渡の魅力を伝える

### SDG s と関連させて…

寺本氏の授業後、協議会がもたれた。その中で、若い先生の 1 人が、SDG s と観光教育の結びつきについて意見する場面がみられた。離島の佐渡は、現在、人口が約 5 万 4,000 人である。毎年、1,000 人以上減るとい  
う状況が続き、2060 年頃には 2 万 5,000 人になるのではと予想されてい  
る。観光教育を進めることは、新たな雇用を生み出し、島に定住する若  
者が増えるチャンスにつながるかもしれない。佐渡や地方の未来のため持続  
的に開発させるためにも、観光教育は一役かってくれそうである。観光教  
育は、未来を輝かせる教育になるに違いない。





## 佐渡島の魅力あふれる地域資源に気づく 観光教育の試み

玉川大学教育学部 教授 寺本 潔

### 島の歴史・自然・文化

新潟港から高速船で60分余り、佐渡島の両津港に着いた。ここは野生のトキや佐渡金銀山で有名な島。史跡では江戸時代から掘られてきた佐渡金山だけでなく、北沢浮遊選鉱場跡や大間港などダイナミックな近代の土木遺産も魅力的だ。現在、佐渡市は金山関連の世界遺産登録に向け、市をあげて観光振興を推進している。ガイダンス施設の「きらりうむ佐渡」や「トキテラス」といった新施設もオープンし、さらに世界農業遺産やジオパーク、宿根木という北前船の寄港地もあり、魅力あふれる地域資源の島となっている。



### 多角的な思考を育む授業

これら多様な地域資源について地元の児童はどの程度知っているのだろうか。このたび、縁あって佐渡市立新穂小学校6年学級で筆者による出前授業(4時間)を受け入れていただいた。新穂小では貴重な野鳥であるトキについての学習が実施され、校内に発表資料や模型などが展示されていた。筆者は佐渡市全体の観光価値に児童の視野を広げさせたく、開発した「観光地+動詞=楽しみ方」という手法で観光プラン作成を班学習で促したり、観光客という相手目線で地域の資源の価値(強みや弱み)を思案するSWOT分析という思考ツール(経営分析の視点で強み・弱み・チャンス・怖れの4観点で分析する方法)で佐渡島の観光資源を問いなおしたりする学



▲観光資源を整理する学び

びを試みた。佐渡市の観光の強みは、自然が豊か、金山がある。弱みはコンビニエンスストアが少ない、冬は船が出ない。チャンスは、オリンピックで外国人が来る。怖れは、高齢者が増え若い人が減っている。などといった意見が飛び出した。

### 地域の魅力を価値に換える 観光教育に向けて

一般的な「ふるさと教育」は、地域の自然や歴史・偉人などの特色を学んだり、祭りに参加したり、郷土料理をつくったりする学習が多いが、人口減少が著しい地方にあっては単に地域への愛着や誇りを育むだけでは地域の未来が切り拓けない。筆者が提唱する観光教育は観光振興を目途に地域が稼げるしくみづくりやホスピタリティ意識の醸成、英語で観光紹介など、常に観光客という他者を意識した学びを推奨している。詳しくは拙著『観光教育への招待—社会科から地域人材育成まで—』(ミネルヴァ書房)を読んでいただきたいが、筆者自身、児童生徒の前で実践を重ねるたびに手ごたえを感じている。観光を題材にした学習は学習者の食いつきが違う。グループで話し合う場面でも実に楽しそう。教育課程に位置づけるためには、社会科+総合で教科横断的な学習を構想する必要があり、積極的に地域の観光協会職員をゲストに呼んだり、観光情報をネットやパンフレットで収集・分析したりする場面も必要となる。

### 観光ガイド体験で成長する中学生

南佐渡中学校では夏休みの部活動として、地元中学生による観光ボランティアガイド活動が実施されている。指導に当たる社会科教諭に尋ねたところ、観光客相手に説明するガイドは、生徒自身のコミュニケーション力を格段に向上させるようだ。学んだことを人前で説明できた瞬間、知識の定着も確かになる。佐渡らしい「ふるさと教育」が生まれている。



▲付箋に自分の考えを書いて分析表に貼っていく



## 熊本市立北部中学校研究部

# 人とつながる 社会とつながる 未来とつながる ESD

熊本市立北部中学校（校長 上野正直、生徒数 653名）は、熊本市の北部に位置し、川上、北部東、西里の3つの小学校区からなっております。2019年度から2年間、国立教育政策研究所および熊本市教育委員会から教育課程「ESD」の指定校として、「持続可能な社会のつくり手としての資質・能力を育む教育」のあり方やカリキュラムマネジメントについて取り組んでまいりました。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「課題発見力・課題解決力」を育むために実践した内容をご紹介します。

## 学校生活（ESD）で育む力

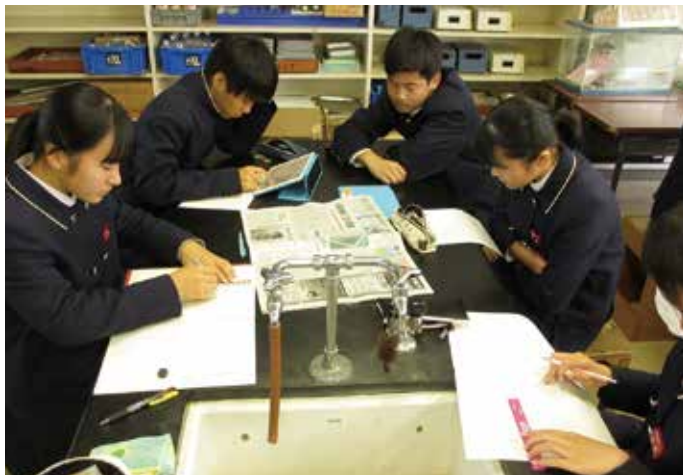
北部中学校では、ESDで身につけたい7つの力を設定しました。それは、  
①批判的思考力、②多面的・総合的思考力、③キャリアプランニング力、④コミュニケーション力、⑤情報活用能力、⑥レジリエンス（柔軟性）、⑦シチズンシップ（市民性）の7つです。これらを思考力に関するものと姿勢や態度に関するものに分け、7つの力を明確にすることにより、各教科の授業や総合的な学習において、意図的・計画的に教育活動を進めました。  
また、総合的な学習の時間と各教科等のクロスカリキュラムを「ESD学

びの地図」によって可視化、整理しました。

## 新しい委員会活動の設置と北部SDGs

従来あった11の委員会に、学習向上委員会、NIE委員会、統計調査委員会、国際交流委員会を新たに加えました。新しくできた委員会を含めた15の委員会に、生徒全員が所属し、総合的な学習の時間を使った。「北部SDGs」を開設しました。ここでは、通常の委員会活動とは目的の異なる、探究的な活動を中心にSDGsのゴールを使った取り組みを行っています。





● NIE 委員会の取り組み例



● 統計調査委員会の取り組み例



● SDGs 未来都市キックオフイベントに参加

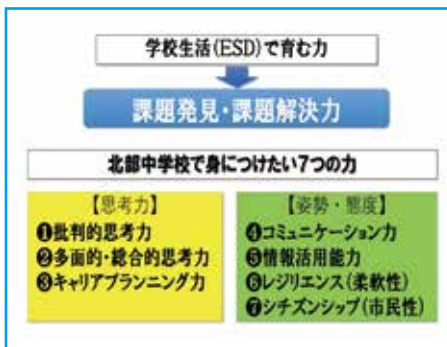


## 学校を核とした教育 エコシステムの構築

本校を核として、校区にある小学校、熊本市まちづくりセンター、大学、産業機関などと連携しながら、地域全体でのSDGsの浸透や教育エコシステムの構築を目指す活動を行いました。熊本副市長を招聘したシンポジウム「北部の未来を考える」の開催、まちづ



● つながりを見やすくした「学びの地図」



● ESD で育む力



● 「北部の未来を考える」での様子

くりセンター主催の「熊本市北区SDGsフェスタ」への参加、生徒会の代表と地域の民生委員・PTAとの意見交流会の実施。また、熊本市教育委員会の事業への協力として「熊本市の教育を世界に」OECD シュライヒャー局長と共に考える「education2030」や「熊本市SDGsキックオフイベント」へも参加協力し、本校の取り組みを発表しました。



全国各地のさまざまな取り組みを紹介します。

**3**年生社会科「販売」の単元で、本校児童は、スーパーマーケットの工夫の一つとしてエコバッグを取り上げました。「海の生き物を守るためにも、ビニール袋は使わない方がいい」という発言が出てくるのは、販売の工夫を売り方だけでなく、地球環境を守る取り組みとして「SDGs 目標 12：持続可能な生産消費形態を確保する」につなげて考えられているからだと思われま。八名川小学校は、開校 103 年の歴史ある学校です。保護者・地域の多大なる協力を得ながら教育活動を進めています。平成 22 年度にはユネスコスクールに認定され、ESD を推進しています。

今年度は、ESD の日常化を目指し、地域を活用した授業を行ってきました。そのため、SDGs と各教科・領域の関連を示した「SDGs 実践計画表」を基に、カリキュラム・マネジメントを図式化した「ESD カレンダー」と「指導計画」を作成し、実践しています。また、問題



**ど**んな状況においても「自分の命は、自分で守る」ことは本校に課せられた大きな課題の一つである。本校は、静岡駅から 5 km ほど南に位置し、安倍川最下流の東側、駿河湾に面した場所に立っている。地震発生に伴う津波浸水想定地域に学区の広い範囲が含まれ、地域住民にとっても災害に備え防災意識を高めることは、重要課題である。このような現状を踏まえ、地域と連携し、命の大切さを学ぶ防災教育を静岡型小中一貫教育の軸となる教育活動として位置づけ、平成 29 年度より小中一貫教育を進めている。

「自ら命を守り、地域の一員として、率先して地域防災訓練などに参加・参画する」「自分たちにもできる『支援者としての視点』を養い、安全で安心な社会づくりに進んで貢献する」を目指す子どもの姿として定め、9 年間の防災学習カリキュラムの作成に努めた。1 年生「教室で地震が起きたら」から始まり、5 年生「DIG 学習からの防災マップ作り」、6 年生「災害時の様々な状況での判断力を養うクロスロード学習」な

解決学習を重視し、児童の「問い」を大切にした「ステップ」を設定し、2 ステップ以上のサイクルを学習過程に取り入れた探究学習を進めています。特に、伝え合う過程を重視し、学習発表会「八名川まつり」も行っています。各学年がグループごとに、他学年や保護者、地域の方に追究内容を発表します。毎年、上学年の発表を見聞きして自分の学びに取り入れていくことで、表現力は高まります。日頃から ESD の価値観を育てていくことも重要です。見方・考え方を働かせるため、SDGs に関連した新聞記事等を掲示したり、校長講話や道徳等で取り上げたりしてきました。前述の児童の発言のベースには、八名川まつりでの上学年の環境学習の発表や朝会講話で扱った「ビニールごみを食べて死んでしまったウミガメ」の話がつながっていました。

今後も、コミュニティー・スクールとして、持続可能な地域社会を担う児童の資質・能力を育てる教育活動を進めていきます。



東京

地域で学び、地域を生かし、地域と行動する  
ESD の日常化に向けて

江東区立八名川小学校 副校長 望月 潔

ど、自助から共助へと系統性をもたせ指導している。中学校では、小学校で身につけた知識や体験をもとに、グループごとに防災テーマを設定し、探究学習に取り組み、地域に発信している。

研究を進めて 3 年目となるが、小中学校とも子どもたちの意識や行動に成果が感じられる。小学校では、児童会が中心に避難訓練や焚き出し訓練を企画・運営することで主体性が高まり、中学校では地域防災訓練について地域の方々と議論しあうことで、訓練への『参加』から『参画』する意識が高まった。

今後、地域との互惠関係をさらに深め、地域と共にある学校づくり、小中一貫コミュニティー・スクールを具現化していきたい。



焚き出し訓練

静岡

自分の力で切りひらく児童生徒を目指して  
防災学習を小中一貫教育の軸に

静岡市立中島小学校 校長 牧野 君洋

## 福岡

### 先人の「志」を伝える「国宝・金印」レプリカ贈呈

金印倶楽部理事 前福岡大学 教授 陣川 桂三

西暦57年に、漢の光武帝から贈られたといわれる「国宝・金印」のレプリカを、1996年から福岡市内の小学校を中心に近郊の小中学校に贈呈している。福岡市教育委員会の支えをいただきながら始めたものである。4年前からは福岡市内の中学校に贈呈を始めて、既に、19校に贈呈した。本年も5校への贈呈を予定している金印倶楽部は、出光芳秀氏（新出光顧問）を会長とした、ボランティア活動である。近隣の多くの企業の後押しが力強い。社会科の学習指導要領にも、6学年の2の（2）のアの（イ）に「大陸文化の摂取…手掛かりに…」とある。「国宝・金印」レプリカ（銅に金メッキ・原寸）を手にとって（手掛かりとして）、日本がまだ弥生期であった頃の人々が、大陸を目指したという「志」・ロマンを想像し、その勇氣に感動をしてもらいたいのである。

令和2年1月に福岡市立照葉北小学校（令和元年新設校）を訪問、校長先生には、ボックスに収めたものを出光会長から贈呈し、その意義を講話した。各学級（5・6年生で5クラス）には桐箱入りの金印レプリカを、神田紅師匠（日本講談協会会長・金印特命大使）から贈呈し、お弟子さんによる、「国宝・金印物語」の講話を披露した。金印発掘の場に近い学校とはいえ、人工島にできた新設校である。子どもたちは身を乗り出して聴いていたし、手に触れて感動していた。「西暦57年に大陸に行った昔の人

のことを思い、『金印』についてさまざまな疑問をもっていきたい。」旨の子どもたちの言葉があった。まさに、「金印」がレプリカであれ、子どもたちに、ある「志」を抱かせることができたように感じた。

令和2年には、中学校5校へ贈ることを計画しているが、「国宝・金印」を「手掛かりに」歴史と文化にグローバルな目を向けてもらいたいと考えている。



## 南から



## 沖縄

### 園児のかわいらしい笑顔に癒やされて！

うるま市立石川中学校 校長 田場 勝

中 学校の敷地内をかわいい園児たちが仲良く散歩する光景は、とても心が和む瞬間です。体育の授業中の生徒たちも優しく微笑みながら園児に手を振って合図を送ります。園児たちも負けじと大きな声で、「がんばれー」と声援を送っています。そして、生徒は休み時間にも手を振ったり、放課後には、窓から園児たちに「さよならー」と声をかけて部活動に参加したり、帰宅したりします。そんな微笑ましい光景が時々見られるようになりました。

本校は在校生409名の中規模校です。3つの学校教育目標と「明るいあいさつ、三草礼、朝の読書、感動的な学校行事、家庭学習」の5つの共通実践モットーとGoal（目標）、Challenge（挑戦）、Effort（努力）、Thanks（感謝）の「GCET」<sup>プラス</sup>いい顔、いい言葉、いい心の「和顔愛語」を行動のキーワードとして、日々教育活動に邁進しております。

さて、沖縄県内で初めて中学校内に、2018（平成30）年9月27日、「みほそ小規模保育事業所」と「みほそ第二小規模保育事業所」の2園が開所しました。開所目的は、待機児童の解消のみならず、中学生の情操教育やキャリア教育に寄与するということです。そこで、これまで本校と2つの保育所で連携し、主に実践した事業を紹介させていただきます。

1. 家庭科の授業で作成した絵本の読み聞かせ。
2. プランターに花の苗の植え付け。
- 3.

地震・津波避難訓練の共同実施。4. 園児がハロウィンの時に、中学校を訪問する。等々。

いずれも中学生の心の教育にとってもすばらしい取り組みとなりました。

まだまだ、多くの課題はあります。しかし、2園と中学校が共に連携し、充実した心の教育に繋がる実践にしたいと考えています。

今日もまたむじゃきな園児の笑顔に癒やされながら……





# 本物を体験するということ —アートと教育 ②—

埼玉画廊 竹内春香

職業柄、お客様が所有する作品を手離すお手伝いをすることがあります。

いわゆるコレクターと呼ばれるような方は、作品の価格が購入当初より上がったので売りたい、あるいは終活のために家の中を整理したいなど、理由はさまざまです。

先日、あるお客様から、親御さんが30〜40年ほど前に購入した作品があり、自分も歳をとったので売却したいという相談を受けました。作品を見に行くと、ピカソやシャガールなど巨匠の版画を始め、50点以上。ほかに藤田嗣治、池田満寿夫など、誰もが知っている作家の作品も多くある中に、名もわからない作家がフランスかどこかの風景を描いた油彩画がありました。その名もなき作家の風景画が、その時私が「良い絵だな」と心を動かされた唯一のものでした。

結局、その作品は、オークションで予想より倍の落札価格がついて、売ることができました。買った人も、私と同じように、作家の名ではなく、作品に心を動かされたように思います。

アートにふれることは、自分の感性を磨き、自分の美意識をもち、自分の価値観を育てることにつながります。先の売却の仕事では、歴史に残る巨匠の作品よりも、作家の名ではなく、自分の美意識が認められたような気がして密かに嬉しく思いました。（もちろん金銭的には、巨匠の版画の方が断然高額ではあるのですが…）

「美意識」を磨くには、「本物」にふれることが大切だと常々思っています。



2020年2月 洋画家 寺久保文宣氏によるデッサンのデモンストレーション（埼玉画廊での個展にて）

アートの分野での「本物」とは、二つの意味があります。一つは、美術史上で評価が定まったような名作、名品、名画であること、もう一つは、実物を見る、ということとです。

名作は、美術館、博物館、ギャラリーなどに足を運び、日本だけではなく世界の、そして過去から現代までの作品をたくさん見ることです。名作と呼ばれるものを多く見ていると、不思議なことに自然にそれ以外との違いがわかってくるようになります。先のように無名の作家の中にも、自分だけの名作を見つけられるようになります。

そして、必ず実物を見ること。今は、インターネットが発達して、デジタルミュージングやSNS上で作品を見ることも容易に

なってきました。しかし、画面上で見ることと、実際に見ることは全く違うものであることを断言します。その作品が一級品であればあるほど、その差は歴然です。デジタル画像では伝わらない、作品の質感、空気感、細部までの作り込み、を通して伝わる作家の想い、思想、気迫など。一人の作家（あるいは作家グループ）が制作した、世界でたった一つのもので実際に対峙する。肯定的な感覚ばかりではなく、ときには気持ち悪いと感じることだってあるかもしれません。他の人と同じことを感じる必要もありません。そこで自分が何を感ずるのか。そうした体験が、自分の感性を磨き、自分の美意識を磨くことにつながります。

今は体験型アートも増えてきましたが、そういうものに限らず、実際にアート作品を見ることは、ただ「見る」を超えて、その時の自分が、その場でしか得られない「体験」となるはず。その作品の前で何時間も動けなくなる、という感動体験をすることもあるでしょう。そうした体験が、自分の血肉となり、糧になり、生きることを豊かにしてくれます。ぜひ多くの「本物体験」を味わってください。

## 竹内春香

埼玉画廊（有限会社エスバス・ミュウ）専務取締役。  
1980年、埼玉県生まれ。慶應義塾大学経済学部（島田晴雄研究室）時代には体育会女子バレーボール部で汗を流す。2005年、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了後、日本放送協会岡山放送局に勤務（ディレクター）。2014年より現職。博物館学芸員資格も取得している。一男一女の母。



## オリパラ教育の成果を「レガシーにする！」ためのタイミング



スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課  
課長補佐 遠藤 翼

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の「レガシー」。日本全国でよく耳にするキーワードではないかと思います。

あくまで小官の印象ですが、現時点で、オリンピック・パラリンピック教育に関して、「何をレガシーとして残すのか」という点は全ての地域で議論されている内容であり、次に「どのような効果的な方策でレガシーを残すのか」という話は議論がなされ始めており、さらに「持続可能な形でレガシーを残すため、教育委員会と学校において、具体的な役割分担・タイミング・方策等を検討していくべきか」という具体的な議論は、まだまだこれからという印象をもっています。もちろん、議論の成熟度が後者になるほど、継続的で特色ある取り組みが期待できる状況にあるのですが、2020年前半に聖火リレーや競技大会本番を控え、これらのオリパラ関連行事のオペレーションに意識が集中している教育関係者の方々も多いのではないかと推察します。

こうした状況の中で、今回指摘したいのは、全国で展開されるオリンピック・パラリンピック教育の成果を、持続可能な「レガシーにする！」ためには、開催年中盤から後半にかけての取り組みがほぼ唯一のタイミングであり、このタイミングを逃さず備えていただけるとありがたいという点です。

スポーツ庁においては、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」(令和2年度:45地域で実施)を推進していますが、令和元年度事業開始の際の担当者会議で、最初に伝えたメッセージが、大会後のレガシーを意識してオリンピック・パラリンピック教育を推進していただきたいというものでした。新型コロナウイルス感染症対策の関係で令和2年度事業開始の会議は中止されていま



すが、この紙面をお借りしてメッセージをお伝えするとすれば、「行政(特に教育委員会)、学校、児童生徒のそれぞれが、これまでの取り組みを振り返り、オリパラ教育の成果をレガシーとするための具体的なアクションをお願いしたい」というものです。

一般的に、行政部局においては、6月～8月中旬のうちに次年度予算要求を行い、9月以降に財政部局と予算編成・調整を行い、年末から翌年にかけて取りまとめていくスケジュールで動きます。つまり、遅くとも競技大会が開催する前までに、次年度以降の取り組みを形にする必要があります。

また、学校においては、開催年後半は、学校としての教育目標を吟味したり、年末に設置者に提出する年間指導計画などの内容の検討をするタイミングとなります。さらに、児童生徒にとっては、開催年後半は、本夏に競技大会に参加した国内・国外選手等と積極的に交流できるタイミングであり、これまでの学びを振り返る機会となります。このように、行政・学校・児童生徒のそれぞれの取り組みが、開催年中盤から後半にタイミングを合わせて行われることで、より素晴らしいレガシーを各地域に残していくことができるのではないのでしょうか。

最後に、お忙しい中でこれまでオリンピック・パラリンピック教育に携わる方々に対し、改めてお礼申し上げるとともに、これから各地域に生まれるであろう特色あるレガシーに、大いに期待したいと思います。

※この原稿は、開催延期決定前にご寄稿いただいたものです。

イラスト ひらた ひさこ

第18回

## 地球となかよしメッセージ

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

◎主催/教育出版 ◎後援/環境省、日本環境教育学会、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞

教育出版

「地球となかよしメッセージ」事務局

TEL 03-5579-6554 <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

作品募集

(2020年7月1日～9月30日)



\*第17回(2019年度)作品のお問い合わせについても、「地球となかよしメッセージ」事務局へ。

# クラゲに救われた加茂水族館、 奇跡のストーリー

ほ・っ・と・な・出・会・い

山形県鶴岡市立 加茂水族館名誉館長 村上 龍男 さん

Educo

No.52 2020年4月30日発行



もともと立派な施設だったらあんな思い切った方向転換はできなかったでしょうが、老朽・貧乏・弱小な施設のおかげで存分に改修工事ができました。わが身の不運は実は幸運、神様からの贈り物だったのです。その神様は小さなクラゲの姿をしています。

## 破産寸前の苦闘の日々

加茂水族館は今こそクラゲの展示で世界的に有名で、大勢のお客さんで賑わっていますが、ここに至る前は何十年も借金にあえぎ、いつ倒産してもおかしくない状態でした。施設は古くて小さく、あちこち雨漏りしている貧乏水族館だったのです。これといった売りもなく、どんな企画をしても入館者は減る一方。億単位の借金を抱え、先祖代々の家屋敷も担保に取られ、毎日通勤途中に枝ぶりのよい木を眺めては「あれで首を吊るか」と夢想する、どん底の日々を送っていました。

そんなある日、珊瑚の水槽にクラゲの赤ちゃんが偶然紛れ込んでいたのです。少し大きく育てて展示すると、お客さんは今までにないほど大喜びでのぞいていました。この反応に手応えを感じ、クラゲの展示に舵を切つてからは、繁殖に苦労しつつも階段を駆け上がるように業績を上げ、古賀賞という業界最高の賞もいただき、2012年にはクラゲ展示種数世界一でギネス認定されました。

## 高校時代に培った、人生を生き抜く力

不遇の時期をどうして逃げずに踏みとどまったかと考えれば、家を離れて山奥の高校で暮らした3年間のおかげかもしれません。もともと、うちは代々続いた田舎の医者で、私は長男だったから、医者になるべしという暗黙の了解がありました。父は戦地に赴き、戦死公報が入ったのですが、母はそれを信じなかつた。夫は必ず戻ってくるから息子を立派な男に育てておこうと。それが無言の圧力でとても嫌で、ますます勉強から離れていきました。小・中学校はずっと落ちこぼれで、学校がつまらなくて、砂をかむような毎日でした。

高校受験に失敗してどうしようかと思っていたある日、ラジオからキリスト教独立学園についての話が聞こえてきたんです。なんでも、山奥で教師と生徒が力を合わせて自給自足しているらしい。無性に憧れて、ぜひ行きたいと思いました。山形大学の先生に連れられて、雪深い山奥を8km歩いて行き、定員一杯だったのを何とか入学させてもらえたのです。校舎はぼろぼろで目を見張るほど貧乏でしたが、嬉しくてたまらなかつた。校長先生が入学式でおっしゃったのは「(入試のための)勉強はするな」。これは助かりました。その言葉どおり、3年間授業以外の勉強は全くせず、のびのび暮らしました。魚を取ったり、鉄砲をもって野山を駆け回って、兎や狸や山鳥を仕留めたり。獲物はみんなの晩のおかずになります。ここでの生活のおかげで、やっと自分自身に戻ることができました。

## すべてはクラゲにつながる一里塚

私は自分が落ちこぼれで能力がないとよくわかっていたので、安心して仕事を人に任せることができました。傍目からはいい加減に見えるほど頭を柔軟にして、どんな人の言葉でも素直に耳を傾けること、それが経営の真髄です。

加茂水族館内のレストランでは、クラゲ御膳にクラゲ入りラーメン、クラゲアイスを楽しむことができますし、売店ではクラゲ入りまんじゅうやカステラ、羊かんなどがお土産に大人気です。人が聞いたら笑うようなこんな企画をやるうと思えたのも、あの特殊すぎる高校生活があったからかもしれません。猟をしていた時、地元の猟師から何度も

抜け道や裏技を教えてもらいました。打つ手は何もないように見えて、実はあるとたたき込まれたのです。社会に出たら実地で経験したことだけが生きる。なまじ成績が良く、勉強ばかりしてきたら、クラゲの水族館なんて思いつきもしなかつたかもしれません。

幼い頃から劣等生でしたが、魚釣りという大好きなことがあり、これだけは誰にも負けないと思っていました。それが結局、水族館を最後までやり通す力になった気がします。いま振り返れば、すべての出来事がクラゲに出会うための一里塚だったと感謝しています。

村上 龍男・1939年生まれ。山形大学農学部卒業。佐藤商事株式会社を経て1966年から加茂水族館(現・鶴岡市立加茂水族館)に勤務。1967年、27歳で館長に就任。2009年鶴岡市市政功労者表彰授賞。2015年2010年地域づくり総務大臣表彰授賞。2015年水族館館長を勇退、シニアアドバイザーに就任。2019年、市から水族館名誉館長を委嘱。

## Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

- ◆池田理代子氏の巻頭言、大変感動的に読ませて頂きました。「一芸に秀でる」「一隅を照らす」好きこそものの上手なれ」など生徒の夢実現に向けた道徳の読み物資料として活用したいと思えます。(沖縄県K.U)
- ◆小中連携英語教育の推進については、大変意義ある資料だったと思います。さらに、実践校の事例があればご紹介をお願いいたします。(千葉県Y.H)
- ◆地球となかよしゼミナールの竹内氏の考えは、「美」についての新たな視点を与えてくれた。(新潟県K.M)
- ◆『ほっとな出会い』たかおてるこさんの主張がよく理解できます。「逃げる生きろ生きろ!」は、子どもにも気づかせたいことです。(東京都S.H)

## なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進歩や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

教育出版は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

発行所 教育出版株式会社 発行所 伊東千尋  
〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 T.T.Tビル西館

内容について Tel:03-5579-6554 Fax:03-5579-6574  
配送について Tel:03-5579-6546 Fax:03-5579-6548